



XIN GIOT THIEU! (紹介します)

今回のスタディーツアーもベトナム人と日本人が数日間を一緒に過ごしました。生活も考え方も違う人間同士が行動を共にすることで、お互いに刺激を受けました。このツアーに参加した日越の学生を感想文集『Message』から抜粋して紹介します。

木を植えることについて感想 TRAN THI NGOC GUYEN

強い日ざしの中私たちは一生懸命木を植えました。木を植えているうちに、私たちは日本とベトナムの文化とか環境とか、勉強などについて相談しました。とてもおもしろかったです。日本人の友達とはかきょうについての意識が高かったです。言語が違っていても、いっしょに話しているうちに、どんどんわがわが合えるようになりました。私は本当に日本時の友達の行動について感動しました。昔で疲れていても日本人の友達はいっしょにしてくれて一生懸命木を植えました。私は日本人の友達からいろいろなこと勉強させられました。四日間、いっしょに任んだあとで、私たちは親友になりました。(一部省略)来年、私はもう一回カンザーに行きたいです。



ベトナムのともだちと森

ホンバン大学の学生との交流は私にとってとても貴重な体験となりました。植林活動においては実際に行うことで初めてその苦労がわかりました。強い日差しが照り付ける中、足場の悪い現場での作業は想像をはるかに超える大変な作業でした。最初に植林現場を見た時にはあまりの広さに気が驚きましたが、2日後には何とか一面に植えることができました。これはベトナムの学生との協力がなければ成し得なかったことだと思います。全て植え終わったときにみた一面のマングローブは苦労した分とてもきれいな緑に見えました。

私たちが植えることができた木はわずかですが、この活動によりベトナム人学生と日本人との交流の輪が広がったことはとても意味のあることだったと思います。これからも毎年この交流が続き、この交流の輪が広がると共にカンザの森が育っていくのが楽しみです。

中野 遥子



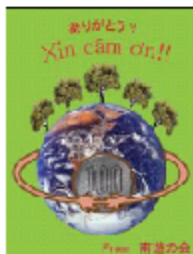
お知らせ

〇お願い～マングローブパスポートについて

毎年の植樹目標は5haですが、1haにつき\$1000の費用は、現在の「南遊の会」にとってかなりの負担になります。そこで会内外の方々へ募金運動を呼びかけ、ご協力頂いた方に「マングローブパスポート」をお渡ししています。金額は1口100円、何口でも結構です。そして「日越青少年交流の森」完成の時に、ご協力頂いた方々のお名前を刻んだ記念碑を立てる計画です。

〇2004年スタディーツアー感想文集『Message』完成

2004年8月に行われたスタディーツアーの感想文集が完成しました。今回のツアーに参加されたベトナムと日本の参加者の感想を中心にまとめたため、ツアーの雰囲気や楽しみと伝わってくる文集です。ぜひ一度お読み下さい。マングローブパスポートを5口以上ご協力いただいた方にお渡ししています。



マングローブパスポート



スタディーツアー感想文集『Message』

編集者: 杉田 萌子
 「南遊の会」事務局
 大西 哲雄
 〒460-0008
 愛知県名古屋市中区栄1-23-13
 なごやボランティアNPOセンター一気付
 Eメール: inio@namudu.jp
 ホームページ: http://namudu.jp

日本・ベトナム青少年交流の森

TAYと手

(手)

「南遊の会」会誌第6号
発行日2005年2月



スタディーツアー2004

マングローブ3ha

植えてきました

熱かった植林活動
楽しかった10日間

昨年、8月17日から26日までの10日間、日本人学生16名と社会人7名がベトナムでのスタディーツアーに参加。さらに、22名のベトナム人学生が加わってマングローブ3haを植林してきました。また別の日には、一緒に小学校を訪問したり、ホーチミン市を観光したり、ベトナムを満喫。たくさんの方々の体験の中で、日越の交流が盛んに繰り広げられました。

今回のスタディーツアーでは、7月に代表に就任した岡山大学教授の藤本が講師。カンザ地区の青少年交流とより良い森づくりに頼もしい力が加わりました。

日本国内では、栄のオアシス21で行われたワールドコラがフェスタに参加。今回のスタディーツアーに参加した学生を中心にステージ上で南遊の会の植樹活動をアピールしてきました。

本号では、参加した学生から、また来年も参加したいという声があがったほど好評だったスタディーツアーを中心に伝えていきます。

スタディーツアー'04の活動報告

1日目 8/17

ホーチミン市にお足過ぎに到着。日本の空気に涼しく暑い日差しをうけてバスでホテルに向かう。新しく行き交うバイクの流に暗然としてしまった。夜、初めてみるベトナム料理を目の前に思わず写真撮影。



▼クチワトンスル



ホーチミンからクチへ移動し、ベトナム戦争で造られた地下トンネルがある野外戦争博物館に到着。経緯無気に響りめぐらされたトンネルにもぐり、当時のアメリカ兵達が苦戦したのを実感した。お昼ご飯は日本で人気のフォー(うどん)をベロリ。気候は蒸し暑いのに、暑いフォーが美味いのはさっぱりとしたスープのせい?

3日目 8/19

ベトナムの学生と初顔合わせ。植林地のカンザーへ向かうバスの中でまずは自己紹介。つたない日本語とベトナム語で笑い起こる。到着後、マングローブとカンザー地区について勉強会が開かれた。昔、カンザーには様々なマングローブが生えていたが、ベトナム戦争でほとんどが消滅。明日から私達が植えるマングローブ林がたくさんの生物の住処になるといふ。



▲カンザーでの勉強会

▼植樹場所までボートで移動



▲バイクの流

10日目 8/26

今日で楽しかったツアーも終わり。空庭までベトナムの学生が見送りに来てくれた。涙のお別れは辛いけど、またさっと会いに来るね。今まで経験したことのない体験ができて本当に良かった。ありがとう、ベトナム!



▲公園で見た太極扇!

9日目 8/25

今日は、ホーチミン市を自由に観光できる日だった。街を歩いていると路上で魚や野菜を売っている人たちがいっぱい。公園には人極半をしたり、踊っている人で賑わっていた。こういう日本に無い景色の中にはゆったりとした時間が流れていたように思う。



▲市場の様子



▲巨大演習館で楽器演奏

8日目 8/24

シクロに二人乗り

グループに分かれてホーチミン市内を観光。初めて乗るシクロ(人力車)に興奮。本社会に慣れてしまっている自分にとりたりとした移動が心地よい。日まぐるしく変わる交通事情の中、このシクロはベトナムでは少なくなってきたらしい。寂しいものだが、夜は、さよならパーティーが開かれ、認定書と記念品をホーチミン大学の学長からいただいた。アオチイを着たきれいな女生徒たちに見とれてしまった。



▼左 日本人学生、右 ホーチミン大学学長



7日目 8/23



▲農業発展局へ表敬訪問

たくさんのベトナム人と交流できるツアーに参加できてよかった。由小麻奈

現地の生活を垣見することができた。竹田芽生

改めて日本語を勉強したい自分を見つけた。鈴木智子

ベトナム人のさびげない懐かしさを感じた。日原あやみ

学生代表を務める責任は重たいけど、いい経験だった。佐々木香

ベトナム人と日本人との交流の輪が広がった。中野美子

友達の新しいグループの森を、よい友との出会いの感動を多くの人が見て聞いて嬉しく感じている。中野美子

ベトナムが大好きになっ
た小川智子



ベトナム最高!!

4日目 8/20

いよいよ、植樹の時がやってきた。地下足袋を履いて植樹場所にボートで移動。道に分かれて植樹を開始。蒸し暑い中、慣れない作業で大変だが、ベトナム人の学生と一緒に楽しく進められる。昨年から藤本代表の研究地域の成長モニタリング調査も行っており、今後の成長を見守っていく予定。苗から成長を観察するマングローブの調査は珍しいらしく、今後の調査に期待したい。

夜は、マングローブの森を管理している森林組合の方々とお別れ会。食後は誰でも気軽にやれるバンブーダンスで大盛り上がり。

▼植樹風景



▲討論会

6日目 8/21

今日もお弁当を持って植樹した。炎天下の作業のため、昼休みは仮設テントの下で休息。ベトナム人は明るく楽しい人が多くて、休息中も歌を歌って疲れた気分を吹き飛ばしてくれる。夜は、お互いのことを知ると、学生だけで討論会が開かれた。議題は、『ベトナム人と日本人の結婚観の違い』について。ちょっと照れくさかったけど、国籍の違いと真実と話すことによって新しい自分を見つけた。

▼モニタリングの調査風景



8日目 8/22

もう3日目の植樹となれば慣れたもの。無駄の無い手つきで予定の3haを午前中までで植樹完了。2年前の第1回スタディーツアーで植えられた木が2m以上の高さまで伸びていた。どんどん成長するマングローブを見て、カンザーにも必ず森が復活する意識が高まる。



▲2年前に植えたマングローブ

今日は8~14歳くらいの子供がいて学校を訪問。私達が持っていたサッカーボールで試合したり、紙でカエルの卵を輪投げしたりした。特にゴム風船や折り紙は人気があった。これで日本の遊びを伝えることができたかな? 午後は、ホーチミンへ戻って農業農村発展局を表敬訪問。植樹の成果と体験の感想を報告した。日越の学生とも貴重な体験ができてよかったという言葉が聞けた。ベトナム人の学生が交流を通して日本人の考えが理解でき、良いところを見習いたいと言ってくれて胸一杯に。

▲小学校遊歩



ベトナム人の友達と遊んで、うれしかった。中野美子

自分の世界観が広がった。佐々木香